

# 東部海浜開発事業検討会議 報告VOL. 3

※検討会議は公開で、どなたでも傍聴が可能です。

## 東部海浜開発検討会議の目的

東部海浜開発事業について、客観的かつ多角的な視点から精査すると共に、公平公正な観点から情報を公開するため、東部海浜開発事業検討会議を設置する。

(東部海浜開発事業検討会議設置要綱より)

## 第3回 東部海浜開発事業検討会議 式次第

日時 平成19年2月10日(土)14:00～  
場所 沖縄市役所 地下2階 大ホール

- (1)開会
- (2)議事
  - ①前回の確認
  - ②疑問点の精査の方法について
  - ③情報公開のあり方
  - ④その他
- (3)閉会

<配付資料>

議事次第・委員名簿・座席表

資料-1 これからのスキームづくり

資料-2 情報公開のあり方

## 検討会議委員 (五十音順・敬称略)

伊良部 光宏	市民委員
岩田 健吉	市民委員
大田 至	市民委員
島田 勝也	NTT西日本-沖縄 (副座長)
高江州 昌和	おきなわ証券株式会社 代表取締役
當山 真由美	(株)都市科学政策研究所
比嘉 徹	(株)レイメイコンピュータ 代表取締役
藤田 喜久	NPO法人 海の自然史研究所 代表理事
宮平 栄治	名桜大学国際学部 教授 (座長)
藁科 邦利	市民委員

※検討委員は、公募により選任された市民委員と、学識経験を持つ専門委員で構成します。

## 委員紹介 パート1

### 宮平 栄治 (座長)

名桜大学の開学以来、経営情報学科で経済学を担当。専門は経済政策で、世界経済・日本経済の動向と沖縄の経済との関連を診断し、政策提言を行う。沖縄市出身及び在住。

### 島田 勝也 (副座長)

2002年～06年4月まで(財)沖縄県産業振興公社へ出向。同時期に立ち上げたプロジェクトが「沖縄ベンチャースタジオ」、現在は同事業のアドバイザー。琉球大学非常勤講師等。趣味は「旅をすること」と「人と会って話すこと」。沖縄市出身。

沖縄市役所 東部海浜開発局 計画調整課(市役所6階) tel 098-939-1212(代表) fax 098-939-6313

<http://www.city.okinawa.okinawa.jp> メインページ→各課案内→計画調整課

※会議の配布資料は事務局へ請求していただければ配布いたします。

沖縄市ホームページにも掲載していますので、そちらもご利用ください。

## 議題1)前回の確認…第2回の内容の確認

### 検討会議ルールの策定…円滑な会議運営のために

- ・徹底した議論・自由な発言、実証的かつ客観的なデータを尊重する。
- ・沖縄市民全体の視点、関心を念頭に。
- ・傍聴者意見は「意見等記入用紙」で行い、会議の場での議論は行なわない。
- ・傍聴者は会議を妨げる行為を行なわない。

等々

### これからのスキーム作り…疑問点等の洗い出し

#### 疑問点等の整理

各委員が記入した疑問点等のカードを14のグループに分類

市民意識 干潟 現状 将来 経済効果 そもそも論  
 具体的な利用 財政負担 外部からの指摘 中心市街地  
 県・国の事業関連 上位計画 会議のあり方 事例



壁に張り出された疑問点のカード



前回の様子

#### どう議論(精査)していくのか

- ・議論が多岐にわたると焦点がぼやけ、時間がかかる。
- ・現計画を軸に推進・反対の意見を拾っていけないか。
- ・会議のゴールのイメージがわからない。  
 →事業の是非を検討、決定する場ではない。  
 議論を進めるうちに提言することになればそれも有り。

#### 市民への広報

- ・市民に情報が正しく伝わっているのかが大事。
- ・どうしたら会議が市民に伝わるのか考える必要がある。

**今回の議題:**  
**疑問点の精査の方法**  
**情報公開のあり方**

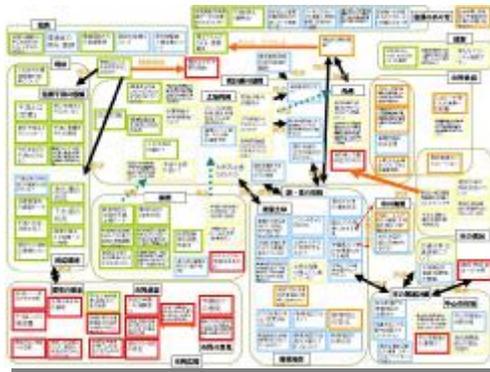
## 議題2)疑問点の精査の方法について…どう議論していくのか

### 疑問点関連図の確認…傍聴者の意見も考慮し整理

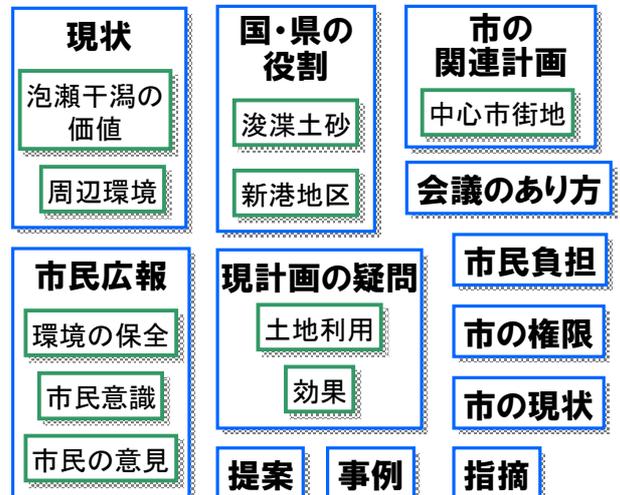
前回の会議で出した疑問点等に、傍聴者の意見等を加えて事前に整理・修正した。疑問点等のカードは12の大グループに整理され、うち5つの大グループはさらに小グループに整理することができた。



関連図の説明の様子



整理された関連図



## 精査の方法について・・・疑問点へのアプローチ

どのような方法で精査していくのか。大きく2案、現行の事業計画を軸に精査する案と、前回作成した関連図(マッピング)をベースに精査していく案のどちらで進めていくかを検討した。

### 【案1】 現行計画を軸に

- ・すでに動いている事業計画を無視しては話は進まないのではないか。
- ・幅広くやろうとすると消化不良を起こす。
- ・市民向けパンフ「人工島事業の理解のために」だけでも軽くはない。これをまず、精査したらどうか。

### 【案2】 関連図をベースに

- ・新たに会議ができた意義として、ゼロからの再検討という方向性もあるのではないか。
- ・グループをもっと大きく3つぐらいに分け(例: 環境・事業・市街地など)、それらについて議論してはどうか。

### 【方向性】「人工島事業の理解のために」の精査

- ・まずは「中城湾港泡瀬地区人工島事業理解のために」という資料を精査していく。
- ・あらかじめ関連図を念頭に置きながら各自資料をよく読んで疑問点を洗い出しておき、会議で検討する。
- ・精査していくうちに関連図の疑問点のいくつかは解消されるはず。
- ・精査の内容を関連図に反映させていく。

### 泡瀬干潟について

- ・泡瀬干潟がどれだけの価値があるかを市民がどれだけ理解しているか分からない。
- ・干潟の価値を知り、その上で何が失われるかを認識すべき。
- ・事業者側の資料は分かりやすくまとまっているので、ぜひ総合事務局に話を聞きたい。

現状を  
理解する必要性

### 現地視察へ

3月17日(土)予定  
泡瀬干潟および  
比屋根湿地、海上工事現場

### 会議の最終目標について

- ・細かいことよりも沖縄県の、沖縄市の明るいビジョンを示した方がよいのではないか。
- ・会議の役割は、
  - ①市長が事業を分析をする材料を提供すること、
  - ②市民に対し会議の議論について理解はできるという形にすること。
- ・市長に、会議で分かったこと、分からなかったことを挙げ、意見を添えるぐらいが限界ではないか

### 過去の会議等について

- ・今回から関わる委員は過去の議論の内容を知らないので知りたい。
- ・「みなとまちづくり懇談会」やアンケートなど、過去の資料にも目を通す必要がある。
- ・過去の争点を洗い出して精査してはどうか。



## 議題3)情報公開のあり方…積極的な広報へ

### 積極的な広報の必要性

- ・事業や会議をより多くの市民に知ってもらう為に、理解できる形での情報提供が重要。
- ・知らないうちにできていた、と言う状況は避けたい。

具体的には…

- ①会場テーブル配置の工夫
- ②市広報誌やネット等の継続活用
- ③各メディアへの積極的な取材の依頼
- ④開催場所の工夫  
(泡瀬の近郊や市役所ロビー等)

など

### 広報のルール

- ・統一した意見はHPまたは会報にて情報提供。
- ・各委員の意見は個人のものであり、会議を重ねることで意見が変わる可能性もある。
- ・会議は賛成・反対を決める場ではない。
- ・個人情報には十分に留意すること

### ポイント

1. メディアに載ることを各委員が理解・納得すること
2. 価値のある議論でないと広報は成り立たない

第4回検討会議は

**2月24日(土)14時～ 沖縄市産業交流センター 大研修室にて** 開催します。

議題は

1. 「人工島事業の理解のために」を読んで
  2. 現地視察のチェック項目
  3. 傍聴者意見等の取扱
- 等です

議題名は予定です。当日までに変更する可能性もあることをご了承ください。

※検討会議はどなたでも傍聴が可能です。

詳しくは **沖縄市役所 東部海浜開発局 計画調整課**までお問い合わせ下さい。

## 参考) 傍聴者の意見

傍聴者の意見は事務局を通じて座長へ提出します。但し、全てが検討会議において反映されるとは限りませんのでご了承ください。反映されなかった意見の取扱は次回検討会議の場で議論することとなっています。ここでは内容を一部省略して掲載しています。

- ・地球温暖化による海面上昇が危ぶまれておりますが、現在の開発計画で(100年後)の近未来の海面上昇に対する対策は出来ていますか？
- ・委員の提案の中で市長の本事業に対する判断材料を分かりやすく、かつ市民に対しても理解できる内容にしてはとありました。賛成である。事業推進によるメリット・デメリットを明確にすることが委員会の役割ではないでしょうか。皆さん頑張ってほしい。
- ・生物の根本的な価値をみんなで話し合っ、市民にも知らせて欲しい。
- ・検討会議が終了し東門市長の決断が出た時に肝心の干潟と浅海の価値ある自然が失われていたら市長が工事中止という答えを出そうとした場合、意味がなくなってしまう。
- ・検討会議としてこの事業に対する最新のアンケートをとる様、提案してほしい。

※全文は**沖縄市役所 東部海浜開発局 計画調整課**のホームページでご覧いただけます。